

3. 「子育てするなら富田林」を一層推進

(1) タブレットを活用した授業等（オンライン授業、プログラミング教育など）について

- ①令和3年度のカリキュラム・マネジメントにおける指導計画等について
- ②新しい学習スタイルとは
- ③不登校児童生徒とのつながりについて

【答弁】

(1) タブレットを活用した授業等（オンライン授業、プログラミング教育など）についての①②③につきまして、順次お答えいたします。

まず、①についてお答えいたします。

令和3年度のタブレットを活用した授業の指導計画等につきましては、現在、各校において、日に2時間程度は各学年の発達段階に応じて活用されるよう、市教委より配付したプランや昨年度よりICT活用やプログラミング教育の研究に取り組んできたモデル校の年間指導計画を参考に作成をすすめております。

本市としても、来年度、教員が計画どおりにタブレットを活用して授業ができるように、グーグルのアプリや授業支援ソフトの具体的な操作方法等について、校内研修の支援に取り組んでいるところでございます。

今後は、教職員のICT活用をサポートするために市教委が作成したテキストや動画資料等を提供するWEBページの整備をすすめるとともに、この間、パソコンが主流であったプログラミング教育についても、タブレットを活用して実施できるようにアプリをインストールしていく必要があると考えております。

本市教育委員会といたしましては、整備したICT環境を効果的に活用し、子どもたちにプログラミング的思考や情報活用能力等を育成していくことの重要性を認識しておりますことから、市内全校で計画的な取組みがすすめられるよう、支援してまいります。

次に、②についてお答えいたします。

文部科学省では、GIGAスクール構想として、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に公正に最適化され、資質・能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現をめざしております。

本市でも、一人一台環境を用いて、教員が授業中に子ども一人一人の反応を把握しながらすすめる「双方向型の一斉授業」や、各自が同時に個別の学習状況に合わせた課題に取り組む「個別最適化学習」、リアルタイムに考えを共有・交流しながら協力して学習をすすめる「協働学習」等を新しい学習スタイルとして捉え、推進しているところでございます。

また、家庭でのICTを活用した学びを実現していくことも必要だと考えているため、来年度の夏頃を目途に準備を進めてまいります。

最後に③について、お答えいたします。

不登校児童生徒にとってタブレットの活用は、個別の学習状況に応じた課題を自分のペースで学習できることから学習支援に有効であり、本市の適応指導教室においてもすでに活用をすすめているところでございます。今後はさらなる活用として、不登校児童生徒が学校以外の場所でオンライン授業を受けることができたり、デジタルドリルを活用して教員が学習履歴からその子に応じた学習課題を提示したり、学習状況や生活状況をオンラインで確認してアドバイスできるようになることを計画しております。

本市教育委員会といたしましては、今後もタブレットを積極的に活用し、オンライン授業の研究をすすめるなど、教育機会確保の観点からも、誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に最適化された学びが提供されるよう、取組みをすすめてまいりたいと考えております。